

軍)至上主義との訣別」及び「党の軍隊(中央軍)への編入機能と党派宣伝機能でしか守った革命戦線運動との訣別」などの方向においても、総点検されねばならない。

我々は、かかる課題に対し、総力をあげ、全同志、全兄弟、全友人とともに、百花斉放をもって問題を深化し、普遍化し、より高次の党一軍一人民の連携(陣型)として、より高次の武装斗争への参加形態として(建軍運動)その物質化を計るであろう。

最後に、人民の軍隊—人民の一翼たらんとし、その発足以降、限りない創造性と献身性をもって斗って来、今日、本集会を主催するまでに、確実に成長しつつある赤色救済会の兄弟たち、そして今日まで、有形無形の支持・支援を示してくれ、今回の事態で深く心痛さしている多くの心ある兄弟たち、友人たち。我々は、現下の試練を通し、そしてその教訓を血肉化し、近い将来、必ずや人民の党—人民の軍隊へと再生するであろうことを約束しよう。

本集会の成功を祝して。

故、連合赤軍兵士に栄光を。

—— 1972年3月31日 ——  
共産主義者同盟赤軍派・東京都委員会  
同 関西地方委員会

24

特別了こールス。

「日本共産党(革命左派)神奈川県常任委員会」

米日反動派の侵略戦争を革命戦争で打ち破るために斗われている建軍武装斗争の過程において、今回、一部の革命派の同志たちによって、同志が犠牲になるという痛ましい事態が発生しました。我々は、犠牲になられた同志の皆さんに、心からの哀悼の意を表わします。そして、斗いながぼして倒れた同志の皆さんを、革命烈士として永遠にとむらうであろうことを誓います。

この問題に関して、我々の基本的見解を表明します。(我々は、獄中にあるためこちらについてほんのわずかのニュースしかわかりませんが、その範囲内です。又、犠牲にした革命派の同志たちが、現在、過酷な取調中であることを考慮して述べます。)

我々には、一部の限られたニュースから判断すればこの問題は、人民内部の矛盾としか思われません。我々は、人民内部の矛盾をこのような形で処理することに断固反対します。敵や、敵の手先(スパイ)逃亡して確実に敵に味方を売り渡すもの、それが確固とした事実によって立証されている者に対しては、敵味方の矛盾の処理の仕方、暴力によって解決することは、全く正当であり、正

25

しいと考えます。しかし、これを人民内部の矛盾にあてはめることは全く誤りです。人民内部の政治、思想、作風(規律)の問題は、政治、思想の教育によって、説得によって政治的自覚を高めることによって解決すべきです。

我々は、一部の革命派同志たちが、どうしてこのような誤りを犯したのか、その根本原因をつぎのよう分析しています。それは、一部革命派同志たちは建軍武装斗争を政治によって統帥することをせず、政治を重視しないで推し進めてきた結果であると考えます。プロレタリア政治、反米愛国路線によって建軍武装斗争を統帥しなかった結果だと思えます。今回のことは、政治抜き軍事路線の破産を宣告したものだと思えます。私達獄中の同志は、七月十五日の統一赤軍結成のニュースを知った時、一部の革命派の同志たちが、政治を重視せず、反米愛国路線を放棄して、統一赤軍を結成したことに断固反対し、脱党宣言まで含めてこれに反対しました。一部の革命派の同志たちは形の上では、この反対意見を取り入れて、統一赤軍(中央軍と人民革命軍の事実上の合同)を連合赤軍(両者の共闘—正しい)に改めました。しかし、一部の革命派の同志たちは、依然として反米愛国路線による軍事の統帥の必要を理解せず、政治抜き軍事路線を推し進めたため、獄中の全ての同志がこれを断固批判し、再三、再四、

26

脱党宣言を含めて、七月以来、今回の事態に至るまで、この路線に警告を発してきました。

私達は、政治を抜き、反米愛国路線を放棄して軍事を進めれば、必ず失敗すると主張しつづけてきました。しかし、外の一部の革命派の同志たちは、政治を重視する問題において、この警告を無視し、獄中の批判書を握りつぶし、救済に圧力を加え獄中の批判書を全体に討論させませんでした。こうして、一部の革命派の同志たちは、新聞のニュースによると(正確かどうかはわかりませんが、統一赤軍を結成したことはほぼ事実であろう。)我々の警告を無視し、もし、独断でこうしたことをすれば獄中全員脱党すると宣言していた統一赤軍=新党なるものを結成してしまいました。そしてこれは一部の報道によると、我々と反米愛国路線、人民遊撃戦争路線、毛沢東思想を批判し、それを放棄して結成されたとも伝えられています。しかし、彼らは獄中が脱党宣言を出すのを避けるためか(それともマスコミがためか)獄中の者には、合同しない、統一赤軍はつくらない、反米愛国路線は守る、人民遊撃戦争路線は守る、毛沢東思想は守ると、手紙で一月に知らせしてきたので獄中一同安心していたのでした。ところがマスコミによれば、一月一日に統一赤軍=新党を結成したそうです。反米愛国路線、人民遊撃戦争路線、毛沢東思想を放棄して、このような政治抜き

27

軍事路線を押し進めれば失敗は必然です。

正しい政治路線の放棄は必ず『左』右の日和見軍事路線を発生させます。今回は、マスコミが伝えるところによると『蜂起』だそうです。そしてそれを個々人の情勢を無視した史的唯心論による『決意』によって、誤った軍事路線をとらせることになります。この『決意』を個々人に強制する結果を招くに決っています。また、政治路線を重視しないと、軍規律を正しく保持することは出来ません。何故なら軍の規律の基礎は、正しい政治路線であり、政治的自覚だからです。両者とも政治路線を放棄して軍事のみで結合すれば、小ブル政治を自然発生的に発生させ、この規律も政治的自覚によらないで、制裁によるようになるのは必然です。政治を放棄した時、そこにもうこうした痛ましい火種はあったのです。プロレタリア政治、正しい政治路線の放棄、小ブル政治の発生は、必ず敵と味方の問題をあいまいにします。この問題こそ、革命の一番重要な問題です。殊に苛酷な銃の地下体制下にあるはこの問題は極めて重大です。この問題は極めて重大です。この問題を正しく解決しないと疑心暗鬼を、この銃の地下体制下では呼びおこすし、味方を敵として扱ってしまいます。現在の革命と反革命の实践的岐点は建軍武装闘争に対して実践的に敵対し、破壊するの可否にあります。理論的、思

想的に敵対しても、実践的に敵対し、破壊しない限り、敵の手先として扱ってはなりません。我々の闘争形態の質が高まれば高まるほど、敵と味方をしっかり区別しないと、敵に向かう刃が味方に向かうことになり、同志が犠牲になります。実カデモ—ビン、ゲバ—武装闘争の内ゲバは、と小だけ同志の犠牲の度合いが高まる。政治路線を重視し、政治的自覚の高い人で軍を構成しないと、軍の機密保持のため不必要な処置をとらなくてはならなくなる。我々は、今回の事態をばっきりと政治抜き軍事路線の破産と宣言します。我々は、反米愛国路線、人民遊撃戦争路線、毛沢東思想を放棄して結成された統一赤軍=新党は、我々の党派(革命左派)とは別の党派であることを宣言します。我々は、こうしたことをすれば脱党すると宣言してあるのですから、これは不当ではないと思います。

反米愛国路線の放棄は、人民遊撃戦争を放棄させた『左』翼(蜂起—一部マスコミによると)軍事路線を発生させ、『決意』主義を生み出し、政治による規律を失わせ、敵味方の処理を誤らせた。同志の皆さん、我々は反米愛国路線の放棄は必ず失敗すると、統一赤軍問題で断言しました。我々は、まさかこのような形で現われるとは想像も出来ませんでした。予想通り、必然的に敗北しました。我々は、同志の皆さん、友人の皆さん

に、政治[ ]抜き軍事路線を徹底的に批判し、清算し、政治や政治統帥の軍事路線の道を歩み、人民遊撃戦争の道を歩むよう、断固主張します。政治路線が正しいか否かが、全てを決定するのであり、政治によって我々の闘争を全て統帥しなくてはなりません。我々は、反米愛国路線を高くかかげ、人民遊撃戦争路線を高くかかげ、毛沢東思想を高くかかげて、赤軍派の同志の皆さんと固く正しく団結し、共闘し(絶対これはすべきです)人民遊撃戦争の大道を前進しようではありませんか。そして侵略戦争を革命戦争で打ち破り、日本革命、世界革命に貢献しよう。

死した烈士の血のあとを踏みしめて前進せよ！  
前進せよ！

涙を力に変えて前進せよ！

尚々我々は、一部の革命派の同志たちが、取調べが終了したら正しく自己批判してくれらることを切に期待する。

軽井沢銃撃戦は断乎支持する。

＜付＞①政治面②軍事面③統一戦線、大衆闘争④総体として、全闘争を反米愛国路線で強かに統帥する党として(③を重視して)今回のことを総括するつもりである。そして我々はこの総括に基づいて、正しく自己批判するつもりである。

1972年3月31日

連続米軍基地爆破斗争被告

(〃)

12-18柴野虐殺弾劾裁判被告

(〃)

2-17武器奪取斗争被告

(〃)

(〃)

(〃)

ゴズマイト裁判被告

(〃)

川島 豪  
佐藤 保  
渡辺 正則  
佐藤 隆信  
中島 衡平  
尾崎 康夫  
雪野 建作  
石井 功子  
小島 陽子  
救討部